

【開催予告】第19回産業・組織心理臨床専門研修会

<テーマ>

働くことを支援する～アセスメントとコンサルテーション、弁護士との連携

<企画主旨>

今回は現場でもニーズの高まっている、オンラインでの研修を実施します。内容は「働くことを支援する」産業領域の中核的なコンピテンシーである、アセスメント、コンサルテーション、連携についてです。アセスメントについては産業医としてご活躍されている高野知樹先生に、医療、産業医、EAP等の視点を踏まえてご講義いただきます。コンサルテーションについては内外のEAPでのご経験のある尾崎健一先生に、人事や上司にコンサルテーションを行う場合に役立つ観点をご講義いただきます。連携については弁護士としてEAP活動をされている牛見和博先生に、弁護士と臨床心理士の連携について、ポイントをご講義いただきます。

第4期前期産業・組織領域委員長 花村 温子

【プログラム】	
午前の部	テーマ 産業保健と医療の視点の違い、そしてどう協働するか
10:00～12:00	講師 高野 知樹
	所属 医療法人社団 弘富会 神田東クリニック
	司会 金山麻李(委員/トヨタ自動車九州) 坊隆史(委員/東洋学園大学)
	内容 例えばメンタル疾患の職場復帰の場面で、産業医と主治医の連携は重要であることは誰もが知っていることだと思います。しかしながら連携がなかなかうまくいかないという実態も多く見られるようです。これらの点をめぐって、疾病の治療という視点である医療と、職場での疾病の発生防止や増悪防止の産業保健の仕組みの違いを再考し、その中での連携や協働の課題やありたい姿についてお話したいと思います。
12:00～13:00	(昼休み)
午後の部	テーマ マネジメントコンサルテーションに活かすドラッカーの読み方
13:00～14:30	講師 尾崎 健一
	所属 株式会社ライフワーク・ストレスアカデミー
	司会 打和登(委員/北九州病院) 坂井一史(委員/SCGカウンセリングセンター)
	内容 健康経営が取りざたされる昨今、職場のメンタルヘルスを経営課題と考える会社や組織も増えてきました。産業領域の心理職がマネジメントコンサルテーションを行う対象は、上司、人事、経営者と広がりを見せています。一方、心理の専門職が語る言葉に、組織のマネジメント層から耳を傾けてもらうことが難しいケースもあります。今回は、「経営の神様」と呼ばれるドラッカーの言葉を用いて、管理職や経営者に響くコンサルテーションの実践を検討したいと思います。
14:30～14:45	(休憩)
14:45～16:15	テーマ 弁護士が語る産業・組織領域の法律とEAP
	講師 牛見 和博
	所属 弁護士法人牛見総合法律事務所
	司会 有園愛(委員/陸上自衛隊福島駐屯地) 種市康太郎(副委員長/桜美林大学)
	内容 産業・組織領域の心理職は、法律・施策の理解だけではなく、今後は法律・施策を通して、専門家と協働することが求められます。そこで本講では、以下の内容について説明します。1) 法律の基本的な考え方と弁護士の役割、2) 法律・施策に関するカレント・トピックス(働き方改革、同一労働同一賃金、ハラスメント防止、その他)、3) 多発する労働問題の実際、4) 弁護士によるEAP、弁護士-心理職の協働可能性。

参加募集開始までしばらくお待ちください。